

2018年6月5日

各 位

会社名 株式会社 キャンパス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

CBS9106(SL-801)に関するASCO年次総会での発表について(続報)

当社が創出し2014年12月に米国Stemline Therapeutics Inc.(以下「Stemline社」)へライセンス導出した抗癌剤候補化合物CBS9106(同社における開発コード:SL-801)について、現在シカゴで開催されている米国臨床癌学会(ASCO)年次会議においてポスター発表がおこなわれ、去る5月17日に当社の公表した『CBS9106(SL-801)に関するASCO年次総会での発表について』に追加すべき情報が含まれておりましたので、お知らせします。

先日公表された抄録(http://abstracts.asco.org/214/AbstView_214_229823.html) では2018年1月6日までに組入れられた31症例について記載されていましたが、今回のポスター発表ではそれ以降に組入れられたものも含め35症例が掲載されました。

有効性

- ✓ 用量漸増試験が続けられており、至適用量は未だ見出されていない。
- ✓ 9症例で病勢安定(SD)を達成
- ✓ 6症例(胃食道結合部癌・大腸癌・神経内分泌癌・基底細胞癌・乳癌)で4ヶ月以上のSDを達成。うち1例(基底細胞癌)で10ヶ月を超えるSD
- ✓ X線撮影で21%の腫瘍縮小が既治療歴の多い神経内分泌癌の症例で観察された

安全性

- ✓ 用量漸増試験を通じて予測管理可能な安全性・忍容性プロファイルを示している
- ✓ 現時点まで投与スケジュールの修正なし
- ✓ 55mg/日まで用量を上げたが用量規定毒性(DLT)・最大耐量(MTD)には到達していない
- ✓ 頻繁に表れた治療関連有害事象(TRAЕ)はグレード1~2で、グレード4・5のTRAЕは報告されていない

薬物動態

- ✓ 用量依存的な曝露の上昇が観察されている

試験の現状と次のステップ

- ✓ 用量漸増試験が続いており、現在は第10コホート(60mg/日)組入れ中
- ✓ 現在まで、予測管理可能な安全性・忍容性プロファイルを示している
- ✓ 既治療歴の多い多数の症例で腫瘍縮小を含む病勢安定を達成
- ✓ 2018年のうちにさらなるアップデート情報公表を予定
- ✓ SL-801の良好なデータと、XPO1が標的分子として臨床評価を得たことを踏まえ、血液癌を対象とするものや併用を含む臨床試験の追加を計画している

本件による当期業績への影響はありませんが、導出先Stemline社におけるCBS9106(SL-801)開発の着実な進捗を示すものであり、現在当社が進めているCBS9106の日本・中国・台湾・韓国(Stemline社へのライセンスでは除外されています)エリアでのライセンス導出交渉への好影響が期待できるほか、当社の中長期的な企業価値の向上に寄与するものと考えています。

以上